

2024年度第1回中高一貫教育具体化検討部会

2024年7月26日（金）
午前9時30分から午前11時30分まで
アイリス愛知 コスモス

次 第

1 開会

2 議題

(1) 教育内容に関する事

ア 探究学習重視型（豊田西・時習館・西尾）

イ 高度ものづくり型（愛知総合工科）・地域の教育ニーズ対応型（日進）

ウ 地域の教育ニーズ対応型（衣台・美和）

(2) 教職員配置に関する事

3 閉会

【配布資料】

- ・資料1：中高一貫教育の導入（第二次導入校）に向けた検討事項
- ・資料2：教育内容に関する事
- ・資料3：教職員配置に関する事

中高一貫教育の導入（第二次導入校）に向けた検討事項

論点1 教育内容に関すること・・・2023年度第4回部会（1/26）
2024年度第1回部会（本日）資料2
第2回部会（9月下旬）

（1）探究学習重視型（豊田西・時習館・西尾）

（背景・基本的な考え方）

- 各校の特色を踏まえた探究的な学びを実現するための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 時習館・西尾は国際バカロレアの導入を目指す。

（2）高度ものづくり型（愛知総合工科）

（背景・基本的な考え方）

- 愛知総合工科高校の充実した施設を活用した、AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出すための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 併設中学校の卒業後は、理工科へ進学する。

【検討内容】（1）（2）共通

導入校の特色、教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）など。

（3）地域の教育ニーズ対応型・不登校を経験した生徒（日進）

（背景・基本的な考え方）

- 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成できる「学びの多様化学校」として設置。
- 他県の「学びの多様化学校」では、特例の教育課程として、授業時数を週29時間から7割程度に減らしたり、複数の教科を統合した教科を独自に設定したりしている。
- 併設中学校の設置と同時に、日進高校では不登校生徒に配慮した入学者選抜をスタートする。

【検討内容】

教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）、不登校を経験した生徒への教育支援（少人数、個に応じた指導、オンラインの活用）など。

（4）地域の教育ニーズ対応型・外国にルーツのある生徒（衣台）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と衣台高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 衣台高校は外国人生徒選抜の合格者が多く、日本語指導が必要な生徒

を全日制で最も多く受け入れている。また、東京外国語大学が文部科学省からの委託により実施している、外国人生徒の日本語能力に関する調査・研究に協力している。

- 豊田市の中学校では、充実した母語支援が実施されている。

（5）地域の教育ニーズ対応型・地域を支える人材（美和）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と美和高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 美和高校では、2021年度から地域連携のための組織「美和高マインド」を設置し、地元自治体や商工会等と連携した地域活動を実施。
- 2025年度、美和高校に地域探究科を設置予定。

【検討内容】（4）（5）共通

連携する中学校、中学校と連携する取組の内容

論点2 教職員配置に関すること・・・2024年度第1回部会（本日）資料3
第2回部会（9月下旬）

（1）併設中学校の教職員配置

（基本的な考え方）

- 中高一貫校の教育内容や生徒への支援の実施に必要な教職員を配置。

【検討内容】

開校初年度から学校完成時までの職種ごとの教職員の配置人数、中学校教員と高校教員の内訳

論点3 その他・・・2024年度第2回部会（9月下旬）

（1）外部人材の配置

（基本的な考え方）

- SCやSSW、キャリア教育コーディネーター、母語支援員、日本語教育支援員など、必要となる人材を配置する。

【検討内容】

配置する職種、体制

（2）併設中学校における入学者選抜

（基本的な考え方）

- 探究学習重視型の3校では、第一次導入校と同様に実施する。
- 愛知総合工科高校併設中学校では、適性検査を実施する。
- 日進高校併設中学校では、適性検査を実施しない。

（3）連携型中高一貫校における高等学校入学者選抜

- 衣台高校・美和高校では、連携型選抜を実施する。

【検討内容】

探究学習重視型以外の学校における入学者の決定方法

論点1 教育内容に関すること（第二次導入校）

1 第二次導入校（愛知県 中高一貫教育導入方針）

類型	タイプ	設置高校名・ 接続する学科	中学校 コース名	導入 形態	1学年 学級数・ 生徒数
探究学習 重視型	SSH実施校	豊田西 普通科	普通 コース	併設型	2学級 80人
	SSH実施校 ※国際バカロレアの導入を目指す	時習館 普通科	普通 コース		2学級 80人
	グローバル探究実施校 ※国際バカロレアの導入を目指す	西尾 普通科	国際探究 コース		2学級 80人
高度もの づくり型	AI・データサイエンスに興味・ 関心を持つ生徒の能力、可能性を 引き出す学校	愛知総合工科 理工科	(仮称) 理工 コース	連携型	1学級 40人
地域の教 育ニーズ 対応型	不登校経験のある生徒の能力、可 能性を引き出す学校	日進 普通科	学びの多 様化学校		1学級 40人まで
	外国にルーツのある生徒の能力、 可能性を引き出す学校	衣台 普通科	—		—
	地域を支える人を育てる学校	美和 普通科・ 地域探究科	—	—	

2 各導入校の教育内容の主な特色（今回検討）

○は導入方針における導入のイメージ
⇒は各学校のコンセプト

(1) 豊田西高校併設中学校

- SSHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。
- ⇒ 実践的な英語力など世界で活躍できるコミュニケーション能力を高める学び

(2) 時習館高校併設中学校

- SSHとAGHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。
- ※ AGH（あいちグローバルハイスクール）：
文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の取組を継承した事業
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ 理数教育や国際理解教育をベースとした、文理融合の探究的な学び
 - ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(3) 西尾高校併設中学校

- 地域を土台として世界を学び、「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点から、グローバルな探究学習に取り組む。
- ※ グローカル：グローバルとローカルを組み合わせた造語で、地球規模の視野で地域の課題について考えること
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ 「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点を育むグローバルな学び

(4) 愛知総合工科高校併設中学校

- 工科高校の施設と教員を生かした中高一貫教育。
- 中学校段階からものづくりやAI・データサイエンスに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DXをリードする人材を育成。
- ⇒ AI・データサイエンスをものづくりに活かし、産業界を変革していくDX人材の育成

(5) 日進高校併設中学校

- 年間総授業時間数を低減できる「学びの多様化学校（不登校特例校）」として設置し、不登校経験のある生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学ぶことができる中高一貫教育。
- ⇒ 個々の生徒に寄り添った学びにより一人一人の可能性を伸ばす
 - ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(6) 衣台高校

- 外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す連携型中高一貫教育。
- 日本語だけでなく母語にも配慮した授業。
- ⇒ 中高連携による異文化理解、多文化共生をテーマとした探究学習、キャリア教育

2024年度：連携教育の取組を開始

[連携中学校] 豊田市立保見中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

(7) 美和高校

- 地域での様々な活動を通して、地域を支える人を育てる連携型中高一貫教育。
- 地域の課題やニーズに対応した教育内容。
- 地域や大学等と連携したキャリア教育の推進。
- ⇒ 中高連携による地域に関する探究学習

2024年度：連携教育の取組を開始

[連携中学校] あま市立七宝中学校・七宝北中学校・美和中学校・
甚目寺中学校・甚目寺南中学校、大治町立大治中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

論点 2

教職員配置に関すること

1 基本的な考え方

- 中高一貫校の教育及び学校運営に必要な教職員を配置する。
- 中学校と関連深い高校の学習内容に中学校段階から触れることで、より深い学びに取り組むこととしている一方で、大学受験に特化した先取り学習は目指さないとしているなど、探究学習重視に見合うバランスの良い中学校教育を展開するため、国語・社会・数学・理科・英語は中学校教員と高校教員をそれぞれ配置する。
- 開校当初は、高学年の生徒が在籍しないため、中学校の内容の教科指導が中心になることから、中学校の教員を中心に配置し、3学年完成時に向けて段階的に高校教員を増やしていく。
- 併設中学校の教員の配置年数は、原則3年間とする。
ただし、大多数の者が一度に異動とされないよう配慮し、特に、開校4年目～6年目は、教科ごとや小中学校教員と高校教員の異動者のバランスを考慮しながら、在籍5年間の上限に年度ごとに分散して異動させる。
- また、高校教員が併設中学校から転出する際は、中高6年間、継続指導ができるような仕組みを検討する。

2 第二次導入校における教職員配置のイメージ

- 基本的に一次校と同様とする
- 併設中学校の校長は導入校の高等学校長が兼務し、校長定数を活用して副校長を配置
- 教職員配置人数は、本県の中学校における学級規模別の教職員配置基準を基準とし、教諭については数人の加配定数を配置することを想定
- 国際バカロレアの導入校は、コーディネーター等必要となる定数を別途措置
- 開校前年度には開校準備員を配置

(参考) 本県の中学校における学級規模別の教職員配置基準

学級数	校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1学級	1	5	1	1	8
2学級	1	7	1	1	10
3学級	1	8	1	1	11
4学級	1	9	1	1	12
5学級	1	10	1	1	13
6学級	1	11	1	1	14
7学級	1	12	1	1	15
8学級	1	14	1	1	17
9学級	1	15	1	1	18

【学校ごとの配置イメージ】

○ 豊田西高校併設中学校

【() 内は小中教員】

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	2学級	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
2年目	4学級	(1) 1	(6) 11	(1) 1	(0) 1	(8) 14人
3年目	6学級	(1) 1	(6) 13	(1) 1	(0) 1	(8) 16人

○ 西尾高校併設中学校、時習館高校併設中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	3学級 相当	(1) 1	(7) 11	(1) 1	(0) 1	(9) 14人
2年目	6学級 相当	(1) 1	(7) 14	(1) 1	(0) 1	(9) 17人
3年目	9学級 相当	(1) 1	(7) 18	(1) 1	(0) 1	(9) 21人

○ 日進高校併設中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	2学級 相当	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
2年目	4学級 相当	(1) 1	(6) 11	(1) 1	(0) 1	(8) 14人
3年目	6学級 相当	(1) 1	(6) 13	(1) 1	(0) 1	(8) 16人

○ 愛知総合工科高校併設中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	1学級	(1) 1	(4) 6	(1) 1	(0) 1	(6) 9人
2年目	2学級	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
3年目	3学級	(1) 1	(6) 10	(1) 1	(0) 1	(8) 13人